



「仕事と生活の調和」

少子高齢化・人口減少時代を迎えた現在、個人、企業や組織などを含めた社会システムは、大きな転換期を迎えています。男性も女性もあらゆる世代の人が、人生の段階に応じて自ら希望する「ライフスタイル」を選び、人生を豊かに生きるために「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の好循環をもたらす社会づくりが求められています。

「ワーク・ライフ・バランス」 のこと、ご存知ですか？

ワーク・ライフ・バランスが実現すると…

○個人

仕事と家庭の両立ができ、自己研鑽や趣味のための時間がとれるようになることで、充実した毎日が過ごせるようになります。

また、子育てなどにも時間がとれるようになりますので、少子化対策としても期待されています。

○地域

余暇時間などの増加によって地域活動の参加者が増加し、活発化します。また、人のつながりも強くなり、地域の教育力向上も期待できます。

○企業・組織・団体

個人のさまざまなニーズ(希望や必要性)に対応し、心身の健康が維持できる就業環境を提供することで、意欲や満足度を高めることにつながり、優秀な人材を確保し定着させることができます。

また、従業員の満足度が向上し、仕事への意欲が高まることや、自ら能力の向上に努めること、心身の疲労が蓄積されないことにより、生産性が向上します。

ワーク・ライフ・バランスとは「ワーク・ライフ・バランス」という言葉は、はじめて聞く方がほとんどではないでしょうか。これは、アメリカにおいて1980年代の後半に、ワーキングマザー支援から拡大したもので、働く人が仕事としてやらなければならないことと、私生活でやりたいこと、やらなければならないことを、無理なく実現できる状態のことをいい、「仕事と生活の調和」を意味します。

一般に、「仕事と生活」と言った場合、「仕事と家庭」あるいは「仕事と子育て」ととらえがちなのですが、この「ワーク・ライフ・バランス」でいう「生活」とは、もっと広い意味があり、家族構成、年齢、性別に関係なく、働くすべての人の「仕事」以外の活動をさします。現在のようには、少子高齢化社会を迎え、労働人口の減少も見込まれる中、「働き方の見直し」を行って、心身ともに充実した人生を送ることは、社会全体のあり方にかかわる、非常に重要な事項となってきました。また、こうした一人ひとりの「生活」が充実することとは、地域や企業にとっても活力と発展をうながすものにつながるのです。